

営業状況等統計調査

令和6年度財務諸表等より

—令和7年度—

<解説編>



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和7年度 営業状況等統計調査

目 次

<解説編>

会員数と回答数旅館ホテルの内訳	2
はじめに	3
報告書の読み方	5
I. 基本調査	
1. 回答旅館ホテルの規模	7
2. 貸借対照表	9
3. 資本効率・借入金償還年数	11
4. 売上構成比	13
5. 原価率	15
6. 経費率	17
7. 利益率	20
8. GOP率	22
9. 定員稼働率・客室稼働率	24
10. 宿泊客1人当り総単価	26
11. 売上効率	29
12. 就業者・就業者効率	31
13. 延床面積効率	34
II. 全件調査	
1. 集客方法	35
2. ホームページ	37
3. インターネット対応	38
4. 外国人宿泊客	39
5. クレジットカード&電子決済	41
むすび	42

会員数と回答旅館ホテルの内訳

会員数（令和7年8月1日現在）

地域（支部連合会）	会員数	区 分
北海道	161	北海道
東北	200	青森県、岩手県、宮城県、秋田県、山形県、福島県
関東	356	茨城県、栃木県、群馬県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、山梨県
北陸信越	373	新潟県、富山県、石川県、長野県
中部	250	福井県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県
関西	304	滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県
中国	126	鳥取県、島根県、岡山県、広島県、山口県
四国	110	徳島県、香川県、愛媛県、高知県
九州	206	福岡県、佐賀県、長崎県、熊本県、大分県、宮崎県、鹿児島県、沖縄県
合計	2,086	



一般社団法人日本旅館協会「令和7年度 営業状況等統計調査」

大規模・・・客室数100室以上
 中規模・・・客室数31室以上99室以下
 小規模・・・客室数30室以下

<回答旅館ホテルの内訳>

	有効回答数(棟)			黒字 施設数 (棟)	黒字 比率 (%)	総回答数 (棟)	
	大規模	中規模	小規模				
全体	151	28	68	55	107	70.9	151
大規模	28	28	—	—	24	85.7	28
中規模	68	—	68	—	43	63.2	68
小規模	55	—	—	55	40	72.7	55
北海道	26	11	9	6	19	73.1	26
東北	12	3	5	4	9	75.0	12
関東	14	2	10	2	10	71.4	14
北陸信越	12	1	7	4	10	83.3	12
中部	11	2	7	2	9	81.8	11
関西	27	2	10	15	21	77.8	27
中国	13	2	6	5	7	53.8	13
四国	15	3	5	7	10	66.7	15
九州	21	2	9	10	12	57.1	21
黒字	107	24	43	40	—	—	—
赤字	32	4	20	8	—	—	—

(注) 損益計算が十分な回答を有効とした。全件調査は有効回答に加え損益計算が不十分な回答も対象としている。

<はじめに>

この調査は全ての協会員に対し、メール(一部 FAX 等)で周知して実施しています。今回は 151 軒の会員旅館から回答が寄せられました。ご協力いただいた会員各位にはこの紙面をお借りして御礼申し上げます。

この調査は令和 7 年 8 月に開始しており、概ね令和 6 年 8 月以前の決算書を基に作成されたものです。従いまして期首が令和 5 年 9 月～6 年 8 月、期末が令和 6 年 8 月～7 年 7 月の決算が反映されています。

令和 4 年夏頃から徐々にコロナ収束による需要の回復がみられましたが、インバウンドが顕著に増加したのは令和 5 年になってからであり、さらに本格的な回復は感染症法の 5 類に移行した令和 5 年 5 月です。よって今回の調査は回復した決算書に基づく結果となっています。

(1) 対象年度の振り返り

ア) 訪日外国人数: 令和 6 年(2024 年)の訪日外国人数は 3,687 万人となりました。前年度の令和 5 年(2023 年・2,506 万人)比+47.1%、コロナ前の令和元年度(2019 年・3,188 万人)比+15.6%となっています。

出典: 日本政府観光局(JNTO)「訪日外国人統計」より

イ) 訪日外国人の国内旅行消費額: 令和 6 年(2024 年)の訪日外国人の日本国内での旅行消費額は、8 兆 1,257 億円となりました。前年度の令和 5 年(2023 年・5 兆 3,065 億円)比+53.1%、コロナ前の令和元年度(2019 年・4 兆 8,135 億円)比+68.8%となっています。

出典: 観光庁「訪日外国人消費動向調査」より

ウ) 日本人の国内旅行消費額: 令和 6 年(2024 年)の日本人の国内旅行消費額は、25 兆 1,536 億円でした。前年度の令和 5 年(2023 年・21 兆 9,101 億円)比+14.8%、コロナ前の令和元年度(2019 年・21 兆 9,312 億円)比+14.7%となっています。

出典: 観光庁「旅行・観光消費動向調査」より

(2) 今年度調査の回答数、回答率<表 1>

今年度の調査票送信数は 1,822 軒、回答数は 151 軒でした。全体の有効回答数は 151 軒で、送信軒数に占める有効回答率は 8.3%でした。

規模別にみる有効回答数の前年度比・令和元年度比は以下の通りです。

- ・大規模 28 軒 (前年度比 0 軒 ± 0% / 令和元年度比 ▲11 軒 ▲28.2%)
- ・中規模 68 軒 (前年度比 ▲8 軒 ▲10.5% / 令和元年度比 ▲29 軒 ▲29.9%)
- ・小規模 55 軒 (前年度比 ▲8 軒 ▲12.7% / 令和元年度比 ▲3 軒 ▲5.2%)

表1 有効回答全体の推移 (単位:軒)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
令和元年	194	39	97	58
2年	153	32	70	51
3年	179	29	76	74
4年	153	28	68	57
5年	167	28	76	63
6年	151	28	68	55

(3) 黒字・赤字の割合 <図1、表2>

経常利益で黒字・赤字を区分しています。全体では70.9%となり、前年度から0.8ポイント増加しました。令和元年度からは19.4ポイント増加しています。コロナが収束し全体として回復しています。団体旅行は長期減少傾向にありますが、一部で回復し大規模旅館の収支を改善しています。

- ・大規模 85.7% (前年度比 +14.3P / 令和元年度比 +31.9P)
- ・中規模 63.2% (前年度比 ▲14.4P / 令和元年度比 +11.7P)
- ・小規模 72.7% (前年度比 +12.4P / 令和元年度比 +22.7P)

図1 黒字の割合 (単位:%)

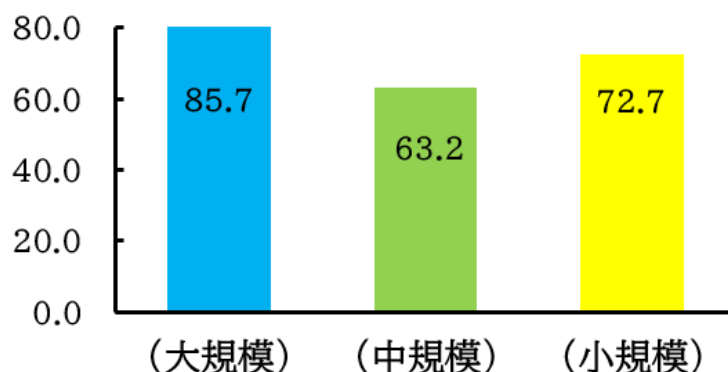


表2 黒字全体の推移 (単位:%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
令和元年	51.5	53.8	51.5	50.0
2年	32.0	12.5	25.7	52.9
3年	43.0	27.6	40.8	51.4
4年	69.3	50.0	73.5	73.7
5年	70.1	71.4	77.6	60.3
6年	70.9	85.7	63.2	72.7

報告書の読み方

(1) 調査の概要

この調査は「Ⅰ. 基本調査」と「Ⅱ. 全件調査」の2部構成となっています。基本調査は損益計算や客室数、利用人員等の記述が十分な回答（有効回答）に絞って集計しています。一方、全件調査はすべての回答を対象として集計しています。

また規模別集計は客室数を基準としています。

- ・大規模 : 100 室以上
- ・中規模 : 31 室以上 99 室以下
- ・小規模 : 30 室以下

さらに、経常利益を基準に「黒字」「赤字」としています。

(2) 今回の主な変更点

- ・特になし

(3) 解説編の表記方法 <表 3>

- ・この調査は調査開始時点での直近の決算書を対象に実施しています。各表の新年度は「令和 6 年」と表記しています。
- ・前年度との比較：例えば「大規模 20,000 円（▲500 円、▲2.4%）」と表記した場合、20,000 円は今年度の集計結果であり、（ ）内は前年度等との比較を示します。
- ・数値が前年度を上回るときは「+」、下回るときは「▲」を付します。
- ・%同士の引き算（例えば 14.4%－14.7%）の結果を%で表記すると 100 分率との混同がありますので、単位をポイントとし「P」と表記します。
- ・本文中の数値は四捨五入のうえ表記します。
- ・多くの決算書で「経費」や「販売管理費及び一般管理費」等と記される科目は表 3 の通り当協会の「統一会計基準」による区分としました。

(4) 資料編について

資料編は集計結果のみを掲載しています。留意点は次のとおりです。

- ・調査は任意回答であるために一部に無回答があります。そこで項目ごとに集計対象を見直しています。
- ・全体平均、規模別、地域別、黒字・赤字別に集計していますが、その場合も以下のようにその都度計算する対象を見直しています。

$$\text{原価率} = \text{原価額} \div \text{売上額}$$

$$\text{黒字の原価率} = \text{黒字施設全体の原価} \div \text{黒字施設全体の売上}$$

$$\text{赤字の原価率} = \text{赤字施設全体の原価} \div \text{赤字施設全体の売上}$$

- ・回答された調査票のうち売上等内訳を記載しないまとめ書きについては按分しています。
- ・さらに、異常値といえる過大あるいは過少の数値については、その項目を不明としています。
- ・また地域別・規模別において回答が 1 軒以下の場合は、算出された数値はブランクとしています。従いまして北陸信越の大規模の地域別の回答は表示しません。なお、全体の大規模の平均には含まれます。

表3 経費区分

人件費	役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、 外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与
営業費	販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、 広告宣伝費、販売手数料
業務費	サービス費(リネン、客室消耗品費、アメニティ)、 備品消耗品費(食器、厨房用品、装飾費)、修繕費、 保守修繕費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費
管理費	リース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、 保険料、租税公課、事務用消耗品費、雑費
減価償却費	建物、構築物、機械等の減価償却費

I. 基本調査

基本調査は全体の経営状況を分析します。

1. 回答旅館ホテルの規模 <表4、表5>

(1) 総客室数・収容定員

全体で1軒当たり客室数は66室、収容定員247名となっています。規模別では、

・大規模	180室	(前年度比 ▲1室 ▲0.6%	/ 令和元年度比 +7室 +4.0%)
・中規模	59室	(前年度比 ±0室 ±0.0%	/ 令和元年度比 ▲2室 ▲3.3%)
・小規模	17室	(前年度比 ▲1室 ▲5.6%	/ 令和元年度比 ▲1室 ▲5.6%)

収容定員は、

・大規模	633人	(前年度比 +3人 +0.5%	/ 令和元年度比 ▲26人 ▲3.9%)
・中規模	238人	(前年度比 +8人 +3.5%	/ 令和元年度比 ▲19人 ▲7.4%)
・小規模	61人	(前年度比 ▲7人 ▲10.3%	/ 令和元年度比 ▲19人 ▲23.8%)

(2) 1室当たり収容定員

$$1 \text{ 室当たり収容定員} = \text{収容定員} \div \text{総客室数}$$

全体で1室当たり定員は3.7人と前年度と同数でした。

(3) 総売上高

全体で1軒当たりの総売上高は、816,699千円で前年度比11.7%増加、令和元年度比19.7%増加しました。

・大規模	1,977,225千円	(前年度比 ▲37,584千円 ▲1.9%	/ 令和元年度比 +270,755千円 +15.9%)
・中規模	729,281千円	(前年度比 +40,273千円 +5.8%	/ 令和元年度比 +126,211千円 +20.9%)
・小規模	267,720千円	(前年度比 +27,814千円 +11.6%	/ 令和元年度比 +85,400千円 +46.8%)

全体としてコロナ禍収束により大きく増加していますが、大規模では前年比減少していますが、回答旅館の違いによるものと思われます。

・大規模	黒字：2,142,539千円	赤字：985,342千円	黒字が赤字に比べ117.4%多い
・中規模	黒字：732,293千円	赤字：741,269千円	黒字が赤字に比べ1.2%少ない
・小規模	黒字：285,806千円	赤字：201,689千円	黒字が赤字に比べ41.7%多い

大規模において黒字・赤字別では、売上高に顕著な差があります。商品力と販売力の差が売上となっています。

全体的に宿泊単価が上がっております。小規模旅館において顕著で、宿泊人員が減少しても売上が増えていきます。

(4) 年間宿泊人員

1軒あたり年間宿泊人員は全体で34,135人となり、前年度比10.6%増加、令和元年度比5.6%減少しました。

- ・大規模 97,182人（前年度比 +7,737人 + 8.7% / 令和元年度比 +9,845人 +11.3%）
- ・中規模 29,607人（前年度比 +1,803人 + 6.5% / 令和元年度比 ▲3,075人 ▲ 9.4%）
- ・小規模 7,636人（前年度比 ▲ 867人 ▲ 10.2% / 令和元年度比 + 217人 + 2.9%）

表4 1棟あたりの総客室数・収容定員・1室当り定員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総客室数 (室)	令和元年	70	173	61	18
	2年	65	161	56	19
	3年	63	181	58	19
	4年	64	172	58	19
	5年	64	181	59	18
	6年	66	180	59	17
収容定員 (人)	令和元年	373	659	257	80
	2年	261	623	232	68
	3年	240	659	239	71
	4年	245	659	215	78
	5年	236	630	230	68
	6年	247	633	238	61
1室当り定員 (人)	令和元年	4.0	3.8	4.3	4.4
	2年	4.0	3.9	4.1	3.6
	3年	3.8	3.6	4.1	3.7
	4年	3.8	3.8	3.7	4.2
	5年	3.7	3.5	3.9	3.7
	6年	3.7	3.5	4.1	3.5

表5 総売上高、年間宿泊人員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高 (千円)	令和元年	682,520	1,706,470	603,070	182,320
	2年	445,128	1,124,806	362,041	164,853
	3年	377,669	880,242	418,838	138,434
	4年	636,817	1,558,751	598,942	229,122
	5年	731,352	2,014,809	689,008	239,906
	6年	816,699	1,977,225	729,281	267,720
年間宿泊人員 (人)	令和元年	36,170	87,337	32,682	7,419
	2年	20,958	48,278	18,080	5,642
	3年	18,915	50,806	19,640	5,761
	4年	28,491	72,632	26,736	8,901
	5年	30,858	89,445	27,804	8,503
	6年	34,135	97,182	29,607	7,636

2. 貸借対照表 <表6、表7、表8、表9>

(1) 資産の状況

1軒当りの総資産額は、全体で1,473,476千円となり、前年度から1.3%増加、令和元年度から16.8%増加しています。

- ・大規模 3,484,168千円（前年度比 ▲791,055千円 ▲18.5%
/ 令和元年度比 +150,628千円 +4.5%）
- ・中規模 1,342,798千円（前年度比 ▲10,829千円 ▲0.8%
/ 令和元年度比 +336,078千円 +33.4%）
- ・小規模 448,000千円（前年度比 +6,125千円 +1.4%
/ 令和元年度比 +147,310千円 +49.0%）

表6 1軒当り資産 (単位:千円)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総 資 産 額	令和元年	1,261,460	3,333,540	1,006,720	300,690
	2年	1,388,164	3,876,485	1,092,891	372,655
	3年	1,100,433	2,791,655	1,147,962	344,268
	4年	1,254,379	3,221,104	1,177,648	392,694
	5年	1,455,139	4,275,223	1,353,627	441,875
	6年	1,473,476	3,484,168	1,342,798	448,000
長 短 借 入 金 合 計	令和元年	995,680	2,654,060	788,580	230,030
	2年	976,754	2,582,449	837,919	255,274
	3年	897,302	2,260,902	978,269	241,421
	4年	997,359	2,614,050	976,491	242,138
	5年	889,219	2,396,932	921,971	240,622
	6年	992,775	2,361,417	939,860	247,215

① 流動資産

流動資産は現預金や売掛金など流動性の高い資産です。総資産に占める割合は29.5%と前年度から0.4ポイント減少しました。令和元年度からは9.2ポイント増加しています。

② 固定資産

固定資産は総資産の70.2%（前年度より0.9ポイント、令和元年度より▲9.3ポイント）を占めます。コロナ禍で減少していた設備投資が一部で復活し、減価償却額を上回ったと思われます。

(2) 負債・資本の状況

① 流動負債

流動負債は、1年以内に返済や支払が予定される短期借入金や買掛金、未払金等です。今回の調査で総資本に占める割合は17.1%（前年度より+0.3ポイント、令和元年度より+0.4ポイント）でした。規模別では、大規模が11.8%、中規模が20.9%、小規模が27.3%でした。

流動負債を流動資産が上回ることが健全です。

② 長短借入金

長期借入金と短期借入金の合計が総資本に占める割合は67.4%となり、前年度より6.3ポイント増加、令和元年度より11.5ポイント減少しました。所謂ゼロゼロ融資による借入金の返済が出来ず借り換え等をしている旅館と、売上・利益が回復し設備投資を活性化し借入金を増やしている旅館があるものと思われます。

③ 自己資本（純資産）比率

企業の安全度・健全度を示す最も重要な指標です。基本的には過去の利益の積み重ねですので、金融機関が重視する指標です。マイナスは帳簿上債務超過を表します。

全体で16.5%と、前年度より6.1ポイント減少、令和元年度より1.1ポイント減少しました。規模別では、大規模 21.7%、中規模 11.1%、小規模 13.1%でした。黒字全体が23.1%、赤字全体は▲14.5%でした。地域別で大きな違いがあります。

表7 貸借対照表

(単位:%)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	29.5	32.7	27.1	24.4
固定資産	70.2	67.0	72.6	75.2
繰延資産	0.3	0.3	0.3	0.4
資産の部合計	100.0	100.0	100.0	100.0
流動負債	17.1	11.8	20.9	27.3
(うち短期借入金)	4.4	3.9	5.2	4.1
固定負債	66.4	66.5	68.0	59.6
(うち長期借入金)	62.9	63.9	64.8	51.1
(長短借入金合計)	67.4	67.8	70.0	55.2
純資産	16.5	21.7	11.1	13.1
負債・資本の合計	100.0	100.0	100.0	100.0

表8 資産と借入金

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
流動資産	令和元年	20.3	21.2	19.2	19.7
	2年	23.1	22.0	23.8	26.8
	3年	23.1	24.5	20.6	27.3
	4年	28.9	29.1	30.0	24.6
	5年	29.9	34.7	26.5	24.2
	6年	29.5	32.7	27.1	24.4
固定資産	令和元年	79.5	78.8	80.4	79.9
	2年	76.7	78.0	75.7	72.6
	3年	76.3	75.1	78.8	71.4
	4年	70.7	70.5	70.0	73.6
	5年	69.3	65.0	72.6	73.5
	6年	70.2	67.0	72.6	75.2
長短借入金合計	令和元年	78.9	79.6	78.3	76.5
	2年	70.4	66.6	76.7	68.5
	3年	81.5	81.0	85.2	70.1
	4年	79.5	81.2	82.9	61.7
	5年	61.1	56.1	68.1	54.5
	6年	67.4	67.8	70.0	55.2

表9 地域別自己資本比率 (単位:%)

	地域別自己資本比率
全体	16.5
大規模	21.7
中規模	11.1
小規模	13.1
北海道	18.4
東北	12.9
関東	20.7
北陸信越	3.8
中部	20.4
関西	10.7
中国	3.4
四国	25.4
九州	24.2
黒字	23.1
赤字	▲14.5

3. 資本効率・借入金償還年数<表 10>

(1) 総資本経常利益率

$$\text{総資本利益率} = \text{経常利益} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本利益率は総資本に対する経常利益の割合を示します。全体平均は 4.2% で前年度より 0.2 ポイント改善、令和元年度より 3.2 ポイント改善しました。

- ・大規模 4.8% (前年度比 +0.5P / 令和元年度比 +4.6P)
- ・中規模 3.0% (前年度比 ▲0.7P / 令和元年度比 +1.8P)
- ・小規模 7.0% (前年度比 +3.6P / 令和元年度比 +1.7P)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：5.9% 赤字：▲3.4%

(2) 総資本回転率

$$\text{総資本回転率} = \text{総売上高} \div \text{総資本} \times 100$$

総資本回転率は総資本に対する総売上高です。この数値が高いほど資本効率が良いと言えます。全体平均は 0.55 回転であり前年度から 0.05 回増加しましたが、依然低水準です。

- ・大規模 0.57 回 (前年度比 +0.10 回 +21.3% / 令和元年度比 +0.02 回 +3.6%)
- ・中規模 0.54 回 (前年度比 +0.03 回 +5.9% / 令和元年度比 ▲0.17 回 ▲23.9%)
- ・小規模 0.60 回 (前年度比 +0.06 回 +11.1% / 令和元年度比 ▲0.04 回 ▲6.3%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：0.55 回 赤字：0.56 回

(3) 借入金償還年数

$$\text{借入金償還年数} = (\text{長期借入金} + \text{短期借入金}) \div (\text{減価償却費} + \text{経常利益})$$

借入金償還年数は借入金を理論上何年で償還出来るかを見る指標です。よって年数が少ないほど良くなります。本調査では便宜上、減価償却費と経常利益を借入金返済の原資と計算しました。

装置産業である宿泊業にとって借入金が多額になることはある意味やむを得ませんが、安定的な利益を確保し、10 年以内で償還出来るようにしたいものです。

全体平均は 8.7 年であり令和元年度から 10.4 年減少しました。

- ・大規模 8.7 年 (前年度比 +1.2 年 +16.0% / 令和元年度比 ▲14.9 年 ▲63.1%)
- ・中規模 10.2 年 (前年度比 +0.8 年 +8.5% / 令和元年度比 ▲7.9 年 ▲43.6%)
- ・小規模 4.8 年 (前年度比 ▲2.5 年 ▲34.2% / 令和元年度比 ▲4.0 年 ▲45.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：6.9 年 赤字：75.1 年

小規模において大きく償還年数が減少しています。借入金は微増していますので、主に経常利益の増加によるものと思われます。

表10 資本効率・資金回収年数

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総資本利益率(%)	令和元年	1.0	0.2	1.2	5.3
	2年	▲5.1	▲6.2	▲4.4	▲1.4
	3年	▲2.7	▲5.9	1.9	0.1
	4年	2.1	0.0	3.1	7.0
	5年	4.0	4.3	3.7	3.4
	6年	4.2	4.8	3.0	7.0
総資本回転率(回)	令和元年	0.62	0.55	0.71	0.64
	2年	0.32	0.29	0.35	0.44
	3年	0.34	0.32	0.36	0.40
	4年	0.51	0.48	0.51	0.58
	5年	0.50	0.47	0.51	0.54
	6年	0.55	0.57	0.54	0.60
借入金償還年数(年)	令和元年	19.1	23.6	18.1	8.8
	2年	▲39.8	▲25.3	▲54.2	32.2
	3年	109.2	▲32.4	15.6	18.3
	4年	14.0	25.4	12.0	5.5
	5年	8.2	7.5	9.4	7.3
	6年	8.7	8.7	10.2	4.8

4. 売上構成比 <図2、表11>

総売上の内訳は「宿泊料理売上」「飲物売上」「売店売上」「その他売上」としています。

長期的に団体旅行や宴会目的の旅行が減少し、それにともない「飲物売上」の比率が下がり「宿泊料金売上」の比率が高まっています。また、インバウンドの増加による一泊朝食付き又は食事なしのお客様の増加により飲物売上や売店売上等の付帯売上が減少傾向にあります。

(1) 宿泊料理売上

総売上高に占める宿泊料理売上の割合は全体平均で 87.8%となり前年度から 5.8 ポイント増加、令和元年度から 15.1 ポイント増加しました。

- ・大規模 87.1% (前年度比 +16.6P +23.5% / 令和元年度比 +12.8P +17.2%)
- ・中規模 87.2% (前年度比 +3.5P +4.2% / 令和元年度比 +17.5P +25.1%)
- ・小規模 92.0% (前年度比 +8.2P +9.8% / 令和元年度比 +12.4P +15.6%)

黒字・赤字別

- ・全体 黒字：89.0% 赤字：81.6%
- ・大規模 黒字：87.4% 赤字：83.9%
- ・中規模 黒字：90.3% 赤字：80.3%
- ・小規模 黒字：92.6% 赤字：88.2%

(2) 飲物売上

飲物売上の構成比は、全体平均で 3.1%、前年度比 0.4 ポイント減少、令和元年度から 2.9 ポイント減少しました。

- ・大規模 3.0% (前年度比 ▲3.7P ▲55.2% / 令和元年度比 ▲1.4P ▲31.8%)
- ・中規模 3.4% (前年度比 ▲0.3P ▲8.1% / 令和元年度比 ▲4.3P ▲55.8%)
- ・小規模 2.6% (前年度比 ▲0.6P ▲18.8% / 令和元年度比 ▲3.7P ▲58.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：2.9% 赤字：4.4%
- ・大規模 黒字：2.6% 赤字：7.7%
- ・中規模 黒字：3.3% 赤字：3.7%
- ・小規模 黒字：2.6% 赤字：2.5%

(3) 売店売上

全体平均で 2.9%、前年度比 0.2 ポイント減少、令和元年度比 1.8 ポイント減少しました。

- ・大規模 4.0% (前年度比 ▲5.7P ▲58.8% / 令和元年度比 ▲2.1P ▲34.4%)
- ・中規模 2.3% (前年度比 ▲0.3P ▲11.5% / 令和元年度比 ▲1.1P ▲32.4%)
- ・小規模 1.1% (前年度比 ▲0.7P ▲38.9% / 令和元年度比 ▲2.8P ▲71.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：2.9% 赤字：3.1%
- ・大規模 黒字：4.0% 赤字：4.1%
- ・中規模 黒字：2.0% 赤字：2.8%
- ・小規模 黒字：0.8% 赤字：3.1%

(4) その他売上

その他売上の構成比は、全体平均で 6.2%、前年度比 5.2 ポイント減少、令和元年度比 10.4 ポイント減少しました。

- ・大規模 5.9% (前年度比 ▲5.5P ▲48.2% / 令和元年度比 ▲9.3P ▲61.2%)
- ・中規模 7.1% (前年度比 ▲2.9P ▲29.0% / 令和元年度比 ▲12.1P ▲63.0%)
- ・小規模 4.3% (前年度比 ▲6.9P ▲61.6% / 令和元年度比 ▲5.9P ▲57.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：5.2% 赤字：10.9%
- ・大規模 黒字：6.0% 赤字：4.3%
- ・中規模 黒字：4.3% 赤字：13.2%
- ・小規模 黒字：4.0% 赤字：6.2%

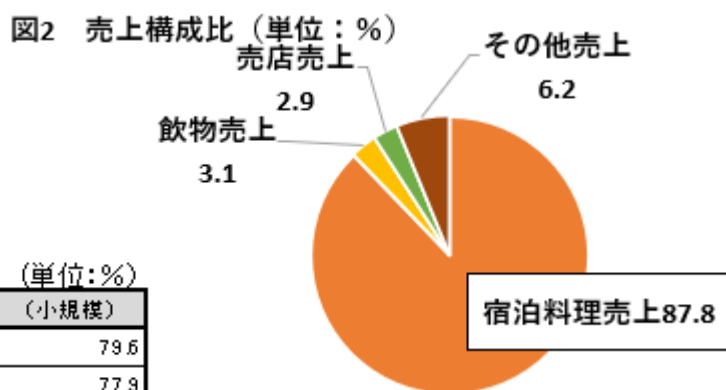


表11 売上構成比

(単位：%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料理売上	令和元年	72.7	74.3	69.7	79.6
	2年	81.3	82.0	81.5	77.9
	3年	85.6	86.0	86.9	80.4
	4年	84.0	82.6	83.4	90.9
	5年	82.0	70.5	83.7	83.8
	6年	87.8	87.1	87.2	92.0
飲物売上	令和元年	6.0	4.4	7.7	6.3
	2年	3.0	3.0	3.1	2.8
	3年	3.2	2.8	3.3	3.8
	4年	3.2	3.0	3.4	3.4
	5年	3.5	6.7	3.7	3.2
	6年	3.1	3.0	3.4	2.6
売店売上	令和元年	4.7	6.1	3.4	3.9
	2年	3.2	3.6	3.1	1.9
	3年	3.3	4.5	2.7	2.0
	4年	3.2	4.3	2.4	1.8
	5年	3.1	9.7	2.6	1.8
	6年	2.9	4.0	2.3	1.1
その他売上	令和元年	16.6	15.2	19.2	10.2
	2年	12.5	11.4	12.3	17.4
	3年	8.0	6.8	7.0	13.8
	4年	9.6	10.2	10.8	4.0
	5年	11.4	11.4	10.0	11.2
	6年	6.2	5.9	7.1	4.3

5. 原価率 <図3、表12>

(1) 売上総原価率

$$\text{売上総原価率} = \text{原価} \div \text{総売上} \times 100$$

総原価率は全体平均で 21.7% (前年度より 1.0 ポイント減少、令和元年度より 1.6 ポイント減少) となりました。

- ・大規模 23.9% (前年度比 ▲0.8P ▲3.2% / 令和元年度比 +0.5P +2.1%)
- ・中規模 20.4% (前年度比 ▲0.5P ▲2.4% / 令和元年度比 ▲3.2P ▲13.6%)
- ・小規模 17.1% (前年度比 ▲4.8P ▲21.9% / 令和元年度比 ▲4.5P ▲20.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：21.1% 赤字：24.6%
- ・大規模 黒字：23.6% 赤字：26.7%
- ・中規模 黒字：18.3% 赤字：24.8%
- ・小規模 黒字：17.2% 赤字：16.9%

(2) 料理材料比率

$$\text{料理材料比率} = \text{料理材料費} \div \text{宿泊売上} \times 100$$

全体平均で 16.0 となり、前年度比 2.4 ポイント減少、令和元年度比 5.8 ポイント減少しました。

- ・大規模 16.8% (前年度比 ▲3.2P ▲16.0% / 令和元年度比 ▲3.2P ▲16.0%)
- ・中規模 15.6% (前年度比 ▲2.3P ▲12.8% / 令和元年度比 ▲8.5P ▲35.3%)
- ・小規模 13.9% (前年度比 ▲1.7P ▲10.9% / 令和元年度比 ▲7.4P ▲34.7%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：15.8% 赤字：16.8%
- ・大規模 黒字：16.8% 赤字：17.3%
- ・中規模 黒字：14.7% 赤字：17.6%
- ・小規模 黒字：14.7% 赤字：8.8%

(3) 飲料仕入率

$$\text{飲料仕入率} = \text{飲物仕入} \div \text{飲物売上} \times 100$$

全体平均で 35.8% となり、前年度比 2.1 ポイント減少、令和元年度比 2.0 ポイント増加しました。

- ・大規模 33.7% (前年度比 +1.8P +5.6% / 令和元年度比 +1.8P +5.6%)
- ・中規模 33.7% (前年度比 ▲3.9P ▲10.4% / 令和元年度比 ▲1.8P ▲5.1%)
- ・小規模 56.4% (前年度比 ▲3.8P ▲6.3% / 令和元年度比 +21.5P +61.6%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：39.4% 赤字：25.1%
- ・大規模 黒字：36.7% 赤字：20.4%
- ・中規模 黒字：37.3% 赤字：26.7%
- ・小規模 黒字：59.4% 赤字：37.0%

(4) 売店仕入率

$$\text{売店仕入率} = \text{売店仕入} \div \text{売店売上} \times 100$$

全体平均で61.3%となり、前年度比6.0ポイント減少、令和元年度比3.1ポイント減少しました。

- ・大規模 63.2% (前年度比 ▲ 8.5P ▲11.9% / 令和元年度比 ▲ 0.1P ▲ 0.2%)
- ・中規模 57.7% (前年度比 ▲ 6.4P ▲10.0% / 令和元年度比 ▲ 8.9P ▲13.4%)
- ・小規模 59.3% (前年度比 + 7.0P +13.4% / 令和元年度比 ▲ 9.2P ▲13.4%)

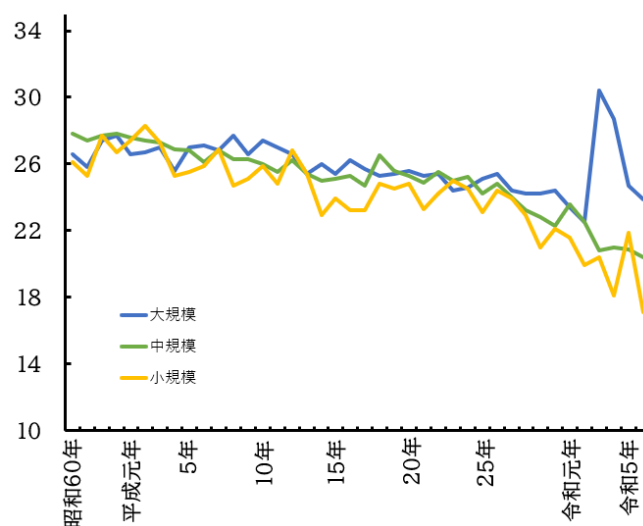
黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：64.1% 赤字：49.1%
- ・大規模 黒字：63.2% 赤字：63.1%
- ・中規模 黒字：67.5% 赤字：42.5%
- ・小規模 黒字：60.2% 赤字：58.5%

表12 原価効率 (単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上総原価率	令和元年	23.3	23.4	23.6	21.6
	2年	22.2	22.5	22.5	19.9
	3年	22.6	30.4	20.8	20.4
	4年	24.1	28.7	21.0	18.1
	5年	22.7	24.7	20.9	21.9
	6年	21.7	23.9	20.4	17.1
料理材料比率	令和元年	21.8	20.0	24.1	21.3
	2年	19.1	18.9	19.8	17.5
	3年	17.9	17.9	18.1	16.8
	4年	18.2	18.9	18.4	15.2
	5年	18.4	20.0	17.9	15.6
	6年	16.0	16.8	15.6	13.9
飲料仕入率	令和元年	33.8	31.9	35.5	34.9
	2年	38.9	38.2	51.8	41.5
	3年	35.9	41.5	32.5	34.8
	4年	36.6	34.3	36.3	44.1
	5年	37.9	31.9	37.6	60.2
	6年	35.8	33.7	33.7	56.4
売店仕入率	令和元年	64.4	63.3	66.6	68.5
	2年	65.6	65.4	66.1	65.7
	3年	62.3	62.3	65.5	48.7
	4年	54.7	50.0	62.4	59.1
	5年	67.3	71.7	64.1	52.3
	6年	61.3	63.2	57.7	59.3

図3 売上総原価率の推移(%)



6. 経費率 <表 13>

当協会の統一会計基準のとおり、経費を人件費、営業費、業務費、管理費、減価償却費の5つに分類しています。

(1) 人件費率

$$\text{人件費率} = \text{人件費} \div \text{総売上} \times 100$$

人件費は役員報酬、給料、退職金、法定福利費、厚生費、外注・委託費、求人費、教育研修費、賞与の合計です。

人件費率は全体平均で 29.7% となり前年度と変わりありませんでした、令和元年度より 5.6 ポイント減少しました。慢性的な人手不足により低水準となっています。IT 化や DX による生産性向上も効果が出てきたこともあるように思われます。人件費率が 40% を超えると経常利益は出にくいと言われていています。

- ・大規模 27.7% (前年度比 +0.7P + 2.6% / 令和元年度比 ▲7.4P ▲21.1%)
- ・中規模 30.9% (前年度比 ▲0.4P ▲ 1.3% / 令和元年度比 ▲4.3P ▲12.2%)
- ・小規模 33.3% (前年度比 ▲0.3P ▲ 0.9% / 令和元年度比 ▲3.5P ▲ 9.5%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：28.7% 赤字：34.5%
- ・大規模 黒字：27.3% 赤字：32.8%
- ・中規模 黒字：29.9% 赤字：33.9%
- ・小規模 黒字：32.0% 赤字：43.6%

(2) 営業費率

$$\text{営業費率} = \text{営業費} \div \text{総売上} \times 100$$

営業費は販売促進費、営業所費、営業交通費、接待交際費、広告宣伝費、販売手数料の合計です。

営業費率は全体平均で 12.9% となり前年度より 1.3 ポイント増加、令和元年度より 1.3 ポイント増加しました。

OTA (オンライントラベルエージェント) へ支払う販促費用が大きくなってきました。集客の為に各種のキャンペーン等に参画し、その費用負担が増加しています。

- ・大規模 12.7% (前年度比 +1.8P +12.3% / 令和元年度比 +3.4P +26.2%)
- ・中規模 13.6% (前年度比 +2.5P +22.5% / 令和元年度比 +3.2P +30.8%)
- ・小規模 11.4% (前年度比 +1.0P + 9.6% / 令和元年度比 +1.5P +15.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：13.1% 赤字：12.6%
- ・大規模 黒字： 4.7% 赤字： 9.3%
- ・中規模 黒字：13.8% 赤字：13.7%
- ・小規模 黒字：11.7% 赤字：10.5%

(3) 業務費率

$$\text{業務費率} = \text{業務費} \div \text{総売上} \times 100$$

業務費はサービス費、備品消耗品費、修繕費、保守管理費、衛生費、車両費、水道光熱費、通信運搬費の合計

です。

業務費率は全体平均で 16.6%となり前年度より 1.3 ポイント増加、令和元年度より 2.2 ポイント増加しました。

消耗品やリネン代等の値上げにより負担が増えています。修繕費も人手不足を理由に非常に高くなり、収益圧迫要因となっています。

- ・大規模 16.4% (前年度比 +1.8P +12.3% / 令和元年度比 +2.3P +16.3%)
- ・中規模 17.7% (前年度比 +1.7P +10.6% / 令和元年度比 +2.7P +18.0%)
- ・小規模 13.2% (前年度比 ▲2.2P ▲14.3% / 令和元年度比 +0.1P + 0.8%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：16.3% 赤字：18.1%
- ・大規模 黒字：16.2% 赤字：18.8%
- ・中規模 黒字：17.6% 赤字：18.3%
- ・小規模 黒字：13.2% 赤字：14.3%

(4) 管理費率

$$\text{管理費率} = \text{管理費} \div \text{総売上} \times 100$$

管理費はリース料、会費・組合費、地代・家賃、顧問料・調査費、保険料、租税公課、事務消耗品費、雑費の合計であり多くは固定費です。

管理費率は全体平均で 6.3%となり前年度より 0.3 ポイント減少、令和元年度より 2.1 ポイント減少しました。物価高騰の影響が比較的少ない科目が多く、売上増による比率の減少があります。黒字旅館と赤字旅館の差は売上額の違いだと思われます。

- ・大規模 6.3% (前年度比 ▲0.3P ▲4.5% / 令和元年度比 ▲1.5P ▲19.2%)
- ・中規模 5.9% (前年度比 ▲0.5P ▲7.8% / 令和元年度比 ▲3.3P ▲35.9%)
- ・小規模 8.1% (前年度比 +0.9P +12.5% / 令和元年度比 +0.4P + 5.2%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：6.2% 赤字：7.1%
- ・大規模 黒字：6.3% 赤字：6.9%
- ・中規模 黒字：5.6% 赤字：6.7%
- ・小規模 黒字：7.6% 赤字：11.6%

(5) 減価償却費率

$$\text{減価償却費率} = \text{減価償却費} \div \text{総売上} \times 100$$

建物や設備等の資産を毎年償却する額です。全体平均で 6.3%となり前年度より 0.6 ポイント減少し、令和元年度より 0.6 ポイント増加しました。一部で積極的な設備投資がみられるものの、全体的には減少しました。

- ・大規模 5.4% (前年度比 ▲1.4P ▲20.6% / 令和元年度比 ▲0.8P ▲12.9%)
- ・中規模 7.1% (前年度比 +0.2P + 2.9% / 令和元年度比 +1.8P +34.0%)
- ・小規模 7.4% (前年度比 ▲0.1P ▲1.3% / 令和元年度比 +1.8P +32.1%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：6.0% 赤字：8.1%
- ・大規模 黒字：5.3% 赤字：7.0%
- ・中規模 黒字：6.6% 赤字：8.2%
- ・小規模 黒字：7.1% 赤字：10.0%

(6) 支払利息率

$$\text{支払利息率} = \text{支払利息} \div \text{総売上} \times 100$$

総売上に占める支払利息の割合です。全体平均で1.9%となり前年度より0.2ポイント増加、令和元年度より0.1ポイント減少しました。

市中金融機関はほとんど変動金利であり、金利上昇が影響しているものと思われます。また所謂ゼロゼロ融資からの借り換えに通常金利が適用されていることも要因のひとつであると思われます。

- ・大規模 1.9% (前年度比 +0.4P +26.7%)
/ 令和元年度比 ▲0.4P ▲17.4%)
- ・中規模 2.0% (前年度比 ±0.0P ±0.0%)
/ 令和元年度比 +0.1P +5.3%)
- ・小規模 1.8% (前年度比 +0.3P +20.0%)
/ 令和元年度比 +0.7P +63.6%)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：1.7% 赤字：2.9%
- ・大規模 黒字：1.8% 赤字：2.9%
- ・中規模 黒字：1.5% 赤字：3.0%
- ・小規模 黒字：1.8% 赤字：2.2%

表13 経費率 (単位:%)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
人件費率	令和元年	35.3	35.1	35.2	36.8
	2年	48.2	49.5	48.2	43.4
	3年	44.3	44.3	43.7	46.5
	4年	33.8	32.7	34.8	34.1
	5年	29.7	27.0	31.3	33.6
	6年	29.7	27.7	30.9	33.3
営業費率	令和元年	11.6	13.0	10.4	9.9
	2年	13.8	15.4	12.8	10.8
	3年	12.5	13.2	12.4	11.2
	4年	11.1	11.3	11.2	10.2
	5年	11.6	14.6	11.1	10.4
	6年	12.9	12.7	13.6	11.4
業務費率	令和元年	14.4	14.1	15.0	13.1
	2年	20.0	19.3	21.8	17.5
	3年	19.9	17.2	22.0	19.7
	4年	16.1	16.0	15.5	18.3
	5年	11.6	14.6	16.0	15.4
	6年	16.6	16.4	17.7	13.2
管理費率	令和元年	8.4	7.8	9.2	7.7
	2年	11.4	12.6	10.6	9.4
	3年	10.4	13.0	8.6	9.5
	4年	9.3	9.9	9.1	8.2
	5年	6.6	6.6	6.4	7.2
	6年	6.3	6.3	5.9	8.1
減価償却費率	令和元年	5.7	6.2	5.3	5.6
	2年	10.8	11.3	10.6	9.3
	3年	10.0	10.7	9.8	9.2
	4年	7.0	6.6	7.3	7.4
	5年	6.9	6.8	6.9	7.5
	6年	6.3	5.4	7.1	7.4
支払利息率	令和元年	2.0	2.3	1.9	1.1
	2年	3.9	4.0	2.8	6.8
	3年	3.4	3.8	3.6	2.0
	4年	2.1	2.5	2.0	1.3
	5年	1.7	1.5	2.0	1.5
	6年	1.9	1.9	2.0	1.8

7. 利益率 < 図4、表14、表15、表16 >

総売上から原価を引いた売上総利益（粗利益）、そこから経費を引いた営業利益、さらに営業外損益を増減した後の経常利益等を集計しました。

(1) 売上総利益率

$$\text{売上総利益率} = \text{売上総利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均で78.3%となり、前年度より2.2ポイント増加、令和元年度より1.6ポイント増加しました。

- ・大規模 76.1%（前年度比 +0.8P +1.1% / 令和元年度比 ▲0.5P ▲0.7%）
- ・中規模 79.6%（前年度比 +3.2P +4.2% / 令和元年度比 +3.2P +4.2%）
- ・小規模 82.4%（前年度比 +5.1P +6.6% / 令和元年度比 +4.0P +5.1%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：78.9% 赤字：75.4%
- ・大規模 黒字：76.4% 赤字：73.3%
- ・中規模 黒字：81.7% 赤字：75.2%
- ・小規模 黒字：82.8% 赤字：83.1%

(2) 営業利益率

$$\text{営業利益率} = \text{営業利益} \div \text{総売上} \times 100$$

前年度比0.2ポイント増加しました。令和元年度より4.9ポイント増加しました。

- ・大規模 7.6%（前年度比 ▲0.3P
/ 令和元年度比 +7.1P）
- ・中規模 3.7%（前年度比 ▲1.1P
/ 令和元年度比 +2.3P）
- ・小規模 8.9%（前年度比 +4.8P
/ 令和元年度比 +3.7P）

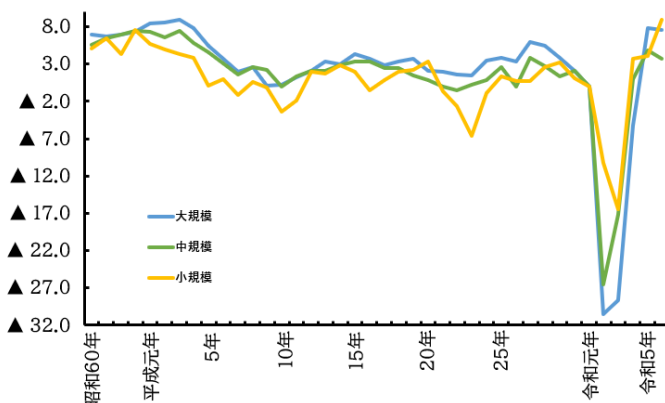
黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：8.6% 赤字：▲5.0%
- ・大規模 黒字：8.3% 赤字：▲1.6%
- ・中規模 黒字：8.1% 赤字：▲5.6%
- ・小規模 黒字：11.2% 赤字：▲6.9%

表14 利益率 (単位：%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
売上 総 利 益 率	令和元年	76.7	76.6	76.4	78.4
	2年	77.8	77.5	77.5	80.1
	3年	77.4	69.6	79.2	79.6
	4年	75.9	71.3	79.0	81.9
	5年	76.1	75.3	76.4	77.3
	6年	78.3	76.1	79.6	82.4
営業 利 益 率	令和元年	1.3	0.5	1.4	5.2
	2年	▲26.5	▲30.5	▲26.6	▲10.2
	3年	▲19.7	▲28.7	▲17.2	▲16.5
	4年	▲1.4	▲5.2	1.0	3.7
	5年	6.0	7.9	4.8	4.1
	6年	6.2	7.6	3.7	8.9

図4 営業利益率の推移(%)



(3) 経常利益率

$$\text{経常利益率} = \text{経常利益} \div \text{総売上} \times 100$$

全体の平均は7.6%です。前年度から0.3ポイント減少、令和元年度から5.7ポイント増加しました。

各種の補助金等の営業外収入が増加したことで、営業利益率より多くなっています。また規模や地域により大きく違ってきます。

- ・大規模 8.4% (前年度比 ▲0.6P / 令和元年度比 + 8.0P)
- ・中規模 5.6% (前年度比 ▲1.7P / 令和元年度比 + 3.7P)
- ・小規模 11.7% (前年度比 +5.4P / 令和元年度比 + 3.0P)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：10.6% 赤字：▲ 6.0%
- ・大規模 黒字：9.2% 赤字：▲ 2.9%
- ・中規模 黒字：11.4% 赤字：▲ 6.8%
- ・小規模 黒字：14.4% 赤字：▲ 6.9%

(4) 償却前経常利益率

$$\text{償却前経常利益率} = (\text{経常利益} + \text{減価償却額}) \div \text{総売上} \times 100$$

全体平均は13.9%で、前年度から1.0ポイント減少、令和元年度から6.3ポイント増加しました。

- ・大規模 13.8% (前年度比 ▲2.0P / 令和元年度比 + 7.2P)
- ・中規模 12.7% (前年度比 ▲1.5P / 令和元年度比 + 5.5P)
- ・小規模 19.1% (前年度比 +5.3P / 令和元年度比 + 4.8P)

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：16.6% 赤字：2.1%
- ・大規模 黒字：14.5% 赤字：4.1%
- ・中規模 黒字：18.1% 赤字：1.4%
- ・小規模 黒字：21.5% 赤字：3.2%

表15 利益率 (単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
経常利益率	令和元年	1.9	0.4	1.9	8.7
	2年	▲16.3	▲20.3	▲14.9	▲4.5
	3年	▲7.9	▲18.6	5.2	0.3
	4年	4.2	0.0	6.2	12.0
	5年	7.9	9.0	7.3	6.3
	6年	7.6	8.4	5.6	11.7
償却前経常利益率	令和元年	7.6	6.6	7.2	14.3
	2年	▲5.5	▲9.1	▲4.3	4.8
	3年	2.2	▲7.9	15.0	9.5
	4年	11.2	6.6	13.5	19.3
	5年	14.9	15.8	14.2	13.8
	6年	13.9	13.8	12.7	19.1

表16 地域別経常利益率 (単位:%)

	地域別 経常利益率
全体	7.6
大規模	8.4
中規模	5.6
小規模	11.7
北海道	1.9
東北	7.9
関東	10.9
北陸信越	1.7
中部	9.0
関西	7.4
中国	4.0
四国	8.6
九州	1.6
黒字	10.6
赤字	▲6.0

8. GOP 率 <表 17>

宿泊業の指標として重要視されている GOP（償却前営業利益）も集計しました。

(1) 総売上対 GOP

$$\text{総売上対 GOP} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{総売上} \times 100$$

GOP は Gross Operating Profit の略で、運営総利益を表します。全体平均で 12.5% となり、前年度より 0.5 ポイント減少、令和元年度より 5.5 ポイント増加しました。

- ・大規模 13.0%（前年度比 ▲ 1.7P / 令和元年度比 + 6.3P）
- ・中規模 10.8%（前年度比 ▲ 0.9P / 令和元年度比 + 4.1P）
- ・小規模 16.4%（前年度比 + 4.8P / 令和元年度比 + 5.5P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：14.6% 赤字：3.1%

(2) 借入金対 GOP

$$\text{借入金対 GOP} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{長短借入金} \times 100$$

全体平均で 10.3% となり、前年度より 0.4 ポイント減少、令和元年度より 5.5 ポイント増加しました。

- ・大規模 10.9%（前年度比 ▲ 1.4P / 令和元年度比 + 6.6P）
- ・中規模 8.4%（前年度比 ▲ 0.3P / 令和元年度比 + 3.3P）
- ・小規模 17.7%（前年度比 + 6.2P / 令和元年度比 + 9.1P）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：12.8% 赤字：2.0%

(3) 1室当り GOP

$$\text{1室当り GOP} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{客室数}$$

全体平均で 1,547.3 千円となり、前年度より 73.2 千円改善、令和元年度より 862.3 千円改善しました。

- ・大規模 1,431.9 千円（前年度比 ▲198.2 千円 / 令和元年度比 + 770.4 千円）
- ・中規模 1,333.1 千円（前年度比 ▲ 22.2 千円 / 令和元年度比 + 673.8 千円）
- ・小規模 2,579.7 千円（前年度比 +1076.3 千円 / 令和元年度比 +1479.7 千円）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1,786.1 千円 赤字：350.5 千円

(4) 1㎡当り GOP

$$\text{1㎡当り GOP} = \text{GOP（営業利益+減価償却費）} \div \text{延床面積}$$

全体平均で 10.8 千円となり、前年度より 0.1 千円改善、令和元年度より 5.3 千円改善しました。

- ・大規模 10.9 千円（前年度比 ▲1.2 千円 / 令和元年度比 5.6 千円）
- ・中規模 8.4 千円（前年度比 ▲1.2 千円 / 令和元年度比 2.9 千円）
- ・小規模 19.1 千円（前年度比 7.7 千円 / 令和元年度比 10.1 千円）

黒字・赤字別では、

・黒字：13.4千円 赤字：2.0千円

表17 売上構成比

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
総売上高対GOP率(%)	令和元年	7.0	6.7	6.7	10.9
	2年	▲15.7	▲19.3	▲15.9	▲1.0
	3年	▲9.7	▲18.0	▲7.5	▲7.3
	4年	5.6	1.4	8.4	11.1
	5年	13.0	14.7	11.7	11.6
	6年	12.5	13.0	10.8	16.4
借入金対GOP率(%)	令和元年	4.8	4.3	5.1	8.6
	2年	▲7.2	▲8.4	▲6.9	▲0.6
	3年	▲4.1	▲7.0	▲3.2	▲4.2
	4年	3.6	0.8	5.1	10.5
	5年	10.7	12.3	8.7	11.5
	6年	10.3	10.9	8.4	17.7
1室あたりGOP額(千円)	令和元年	685.0	661.4	659.3	1,100.0
	2年	▲1,075.2	▲1,346.4	▲1,030.0	▲83.6
	3年	▲581.9	▲879.1	▲533.9	▲531.5
	4年	558.7	129.4	856.4	1,367.7
	5年	1,474.1	1,630.1	1,355.3	1,503.4
	6年	1,547.3	1,431.9	1,333.1	2,579.7
1㎡あたりGOP額(千円)	令和元年	5.6	5.3	5.5	9.0
	2年	▲7.0	▲8.2	▲7.3	▲0.6
	3年	▲4.6	▲7.1	▲3.9	▲4.7
	4年	4.0	0.9	5.9	10.0
	5年	10.7	12.1	9.6	11.4
	6年	10.8	10.9	8.4	19.1

9. 定員稼働率・客室稼働率 <図 5、表 18、表 19>

全体の稼働率は定員を基準とする「定員稼働率」と客室を基準とする「客室稼働率」があります。団体旅行の多い時代には定員稼働率が重視されましたが、個人化が進んだ現在は客室稼働率の方が重要です。

(1) 定員稼働率

定員稼働率=宿泊人員÷(収容定員×営業日数)×100

全体全体では41.8%で、前年度から1.2ポイント増加、令和元年度から5.4ポイント増加しました。全体として上がりました。コロナ禍の完全な収束によるものと思われます。

- ・大規模 43.8% (前年度比 + 1.5P + 3.5% / 令和元年度比 + 6.4P + 17.1%)
- ・中規模 36.8% (前年度比 + 0.8P + 2.2% / 令和元年度比 + 1.1P + 3.1%)
- ・小規模 40.0% (前年度比 ▲ 1.8P ▲ 4.3% / 令和元年度比 + 11.5P + 40.4%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 43.4% ・赤字 35.1%

(2) 客室稼働率

客室稼働率=利用客室数÷(客室数×営業日数)×100

全体平均は61.4%で前年度から4.5ポイント増加、令和元年度から0.4ポイント減少しました。

全体は大きく上がりました。黒字旅館と赤字旅館に著しい差があります。

- ・大規模 61.1% (前年度比 +9.1P + 17.5% / 令和元年度比 ▲ 3.1P ▲ 4.8%)
- ・中規模 62.4% (前年度比 +1.4P + 2.3% / 令和元年度比 + 1.2P + 2.0%)
- ・小規模 59.2% (前年度比 ▲4.7P ▲ 7.4% / 令和元年度比 + 8.9P + 17.7%)

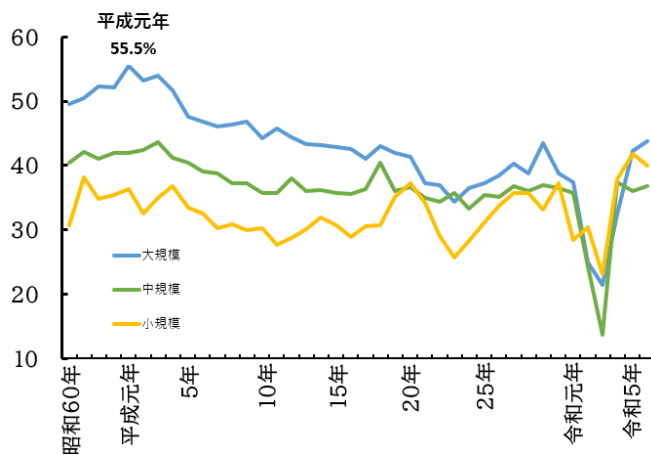
黒字・赤字別では、

- ・黒字 63.6% ・赤字 54.1%

表18 稼働率・1室当り宿泊利用人員

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率(%)	令和元年	36.4	37.4	35.7	28.5
	2年	25.1	25.0	24.4	30.4
	3年	21.3	21.4	13.8	23.2
	4年	36.1	32.4	37.4	37.9
	5年	40.6	42.3	36.0	41.8
	6年	41.8	43.8	36.8	40.0
客室稼働率(%)	令和元年	61.8	64.2	61.2	50.3
	2年	45.5	44.6	46.8	49.5
	3年	36.3	35.0	40.2	38.6
	4年	57.9	53.0	60.9	65.2
	5年	56.9	52.0	61.0	63.9
	6年	61.4	61.1	62.4	59.2
宿泊利用人員(1室当り)(人)	令和元年	2.49	2.71	2.50	2.27
	2年	2.40	2.26	2.40	3.74
	3年	2.25	2.20	1.40	2.20
	4年	2.29	2.32	2.22	2.41
	5年	2.52	2.79	2.27	2.43
	6年	2.45	2.51	2.39	2.36

図5 定員稼働率の推移(%)



(3) 地域別稼働率

地域によりサンプル数が少なく、規模別の数値が揺れていますので全体を参考にして下さい。

一部で団体客の復活がありますが、全体として団体から個人へのシフトが益々顕著になり、客室稼働率が上がる割に定員稼働率が上がりません。

表19 地域別稼働率 (単位:%)

	地域	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
定員稼働率	北海道	44.2	47.1	41.6	17.1
	東北	27.9	26.0	24.8	40.7
	関東	35.4	33.0	36.8	5.7
	北陸信越	39.8	-	32.8	44.4
	中部	51.1	50.8	45.9	60.3
	関西	45.9	41.3	45.3	50.3
	中国	38.8	47.3	30.9	42.0
	四国	38.9	45.1	33.3	35.4
	九州	42.1	43.4	36.8	50.1
客室稼働率	北海道	62.3	63.8	63.4	34.5
	東北	55.3	54.5	54.7	68.1
	関東	59.6	63.3	60.3	8.8
	北陸信越	44.0	-	63.6	45.8
	中部	63.2	60.1	64.9	80.6
	関西	70.7	65.3	74.2	71.4
	中国	62.0	71.1	60.0	44.7
	四国	63.2	64.8	62.7	59.2
	九州	61.0	62.5	55.4	75.9

10. 宿泊客1人当り総単価 <図6、表20、表21>

宿泊客1人当りの単価は、売上を宿泊客数で除して求めています。

(1) 宿泊客1人当り総単価

1人当り総単価＝総売上÷年間宿泊人員

全体の平均は23,926円となり、前年度から225円増加、令和元年度から4,860円増加しました。

- ・大規模 20,346円 (前年度比 ▲2,180円 ▲9.7% / 令和元年度比 807円 +4.1%)
- ・中規模 24,632円 (前年度比 ▲149円 ▲0.6% / 令和元年度比 6,022円 +32.4%)
- ・小規模 35,060円 (前年度比 6,844円 +24.3% / 令和元年度比 10,292円 +41.6%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 22,678円
- ・赤字 : 23,857円

小規模旅館の総単価が大幅に増加したことにより全体の数値を押し上げました。大規模旅館の単価減少は団体客の一部復活によるものと推測されます。人件費や諸物価が高騰するなかで単価アップは重要です。

(2) 宿泊客1人当り宿泊料理単価

1人当り宿泊料理単価＝宿泊料理売上÷宿泊人員

全体平均は20,984円となり、前年度から2,863円増加、令和元年度から7,269円増加しました。

- ・大規模 17,722円 (前年度比 +1,986円 +12.6% / 令和元年度比 +3,197円 +22.0%)
- ・中規模 21,480円 (前年度比 +1,328円 +6.6% / 令和元年度比 +8,616円 +67.0%)
- ・小規模 32,261円 (前年度比 +8,937円 +38.3% / 令和元年度比 +12,699円 +64.9%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 20,179円
- ・赤字 19,471円

(3) 宿泊客1人当り飲物単価

1人当り飲物単価＝飲物売上÷宿泊人員

全体平均は745円となり、前年度から37円減少、令和元年度から468円減少しました。

- ・大規模 608円 (前年度比 ▲76円 ▲11.1% / 令和元年度比 ▲244円 ▲28.6%)
- ・中規模 842円 (前年度比 ▲54円 ▲6.0% / 令和元年度比 ▲706円 ▲45.6%)
- ・小規模 900円 (前年度比 +18円 +2.0% / 令和元年度比 ▲782円 ▲46.5%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 645円
- ・赤字 1047円

(4) 宿泊客1人当り売店単価

1人当り売店単価=売店売上÷宿泊人員

全体平均は705円となり、前年度から27円増加、令和元年度から268円減少しました。

- ・大規模 804円 (前年度比 +20円 +2.6% / 令和元年度比 ▲394円 ▲32.9%)
- ・中規模 558円 (前年度比 ▲74円 ▲11.7% / 令和元年度比 ▲158円 ▲22.1%)
- ・小規模 399円 (前年度比 ▲99円 ▲19.9% / 令和元年度比 ▲626円 ▲61.1%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 664円 ・赤字 737円

(5) 宿泊客1人当りその他単価

1人当りその他単価=その他売上÷宿泊人員

全体平均は1,482円となり、前年度から1,040円減少、令和元年度から1,684円減少しました。

- ・大規模 1,203円 (前年度比 ▲1,357円 ▲53.0% / 令和元年度比 ▲1,762円 ▲59.4%)
- ・中規模 1,740円 (前年度比 ▲691円 ▲28.4% / 令和元年度比 ▲1,742円 ▲50.0%)
- ・小規模 1,496円 (前年度比 ▲1,612円 ▲51.9% / 令和元年度比 ▲1,002円 ▲40.1%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字 1,178円 ・赤字 2,603円

表20 宿泊客1人当りの総売上高 (単位:円)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
令和元年	19,066	19,539	18,610	24,768
2年	21,239	23,298	20,024	29,216
3年	19,967	17,326	21,326	24,028
4年	22,352	21,461	22,402	25,742
5年	23,701	22,526	24,781	28,216
6年	23,926	20,346	24,632	35,060

図6 客1人当り総売上高の推移

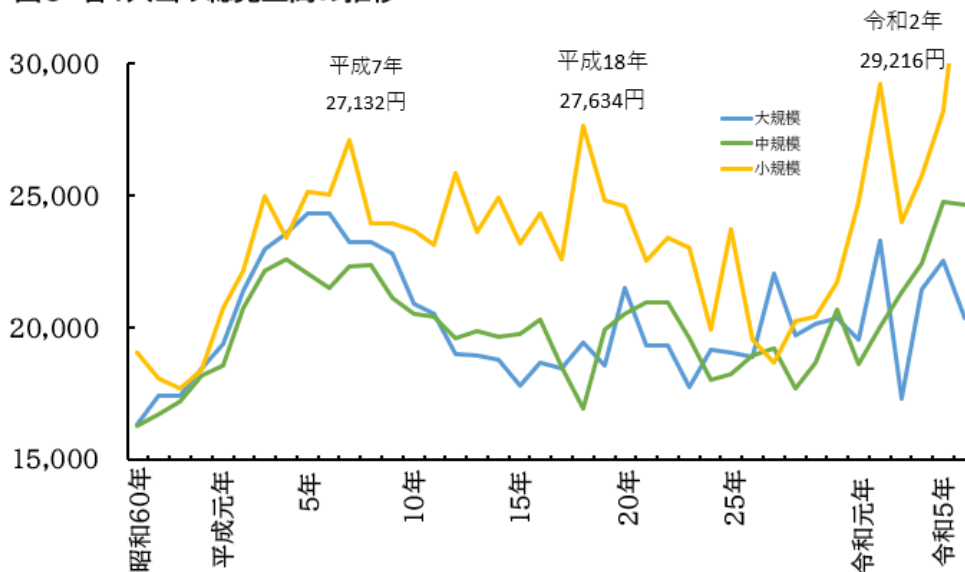


表21 宿泊客1人当り売上高

(単位:円)

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
宿泊料理売上	令和元年	13,715	14,525	12,864	19,562
	2年	17,267	19,099	16,330	22,750
	3年	17,088	14,903	18,536	19,311
	4年	18,782	17,719	18,687	23,389
	5年	18,121	15,736	20,152	23,324
	6年	20,984	17,722	21,480	32,261
飲物売上	令和元年	1,213	852	1,548	1,682
	2年	635	695	611	826
	3年	638	478	714	913
	4年	718	650	754	864
	5年	782	684	896	882
	6年	745	608	842	900
売店売上	令和元年	973	1,198	716	1,025
	2年	683	849	620	552
	3年	652	775	574	491
	4年	707	912	545	468
	5年	678	784	632	498
	6年	705	804	558	399
その他売上	令和元年	3,166	2,965	3,482	2,498
	2年	2,654	2,655	2,463	5,088
	3年	1,589	1,170	1,503	3,313
	4年	2,144	2,180	2,417	1,022
	5年	2,522	2,560	2,431	3,108
	6年	1,482	1,203	1,740	1,496

11. 売上効率 <図7、表22>

(1) 1室当り売上高

装置産業である宿泊業にとって客室1室当りの年間売上は重要な指標です。

全体では12,366千円と前年度比8.8%増加、令和元年度比19.1%増加しました。

特に小規模旅館は単価アップにより増加しました。

- ・大規模 11,002千円（前年度比 ▲ 110千円 ▲ 1.0% / 令和元年度比 + 982千円 + 9.8%）
- ・中規模 12,438千円（前年度比 + 822千円 + 7.1% / 令和元年度比 +1,628千円 +15.1%）
- ・小規模 15,435千円（前年度比 +2,450千円 +18.9% / 令和元年度比 +5,165千円 +50.3%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：12,255千円 赤字：11,155千円
- ・大規模 黒字：11,488千円 赤字：7,089千円
- ・中規模 黒字：12,476千円 赤字：12,892千円
- ・小規模 黒字：16,379千円 赤字：13,335千円

1室当りの売上高を増加させることが黒字化へのひとつの道筋となっています。

(2) ADR（1日1室当り客室平均単価）（Average Daily Rateの略）

全体では58,604円と前年度比1,071円減少、令和元年度比24,416円増加しました。

- ・大規模 51,001円（前年度比 ▲11,945円 ▲19.0% / 令和元年度比 +11,622円 +29.5%）
- ・中規模 58,984円（前年度比 + 2,655円 + 4.7% / 令和元年度比 +26,761円 +83.0%）
- ・小規模 82,700円（前年度比 +14,252円 +20.8% / 令和元年度比 +38,264円 +86.1%）

黒字、赤字別では、

- ・黒字 55,336円
- ・赤字 60,313円

(3) RevPAR（1日1室当りの売上=客室稼働率×ADR）（Revenue Per Available Roomの略）

全体では36,003円と前年度比2,028円増加、令和元年度比14,883千円増加しました。

- ・大規模 31,150円（前年度比 ▲1,560円 ▲ 4.8% / 令和元年度比 + 5,867円 + 23.2%）
- ・中規模 36,805円（前年度比 +2,462円 + 7.2% / 令和元年度比 +17,075円 + 86.5%）
- ・小規模 48,976円（前年度比 +5,231円 +12.0% / 令和元年度比 +26,624円 +119.1%）

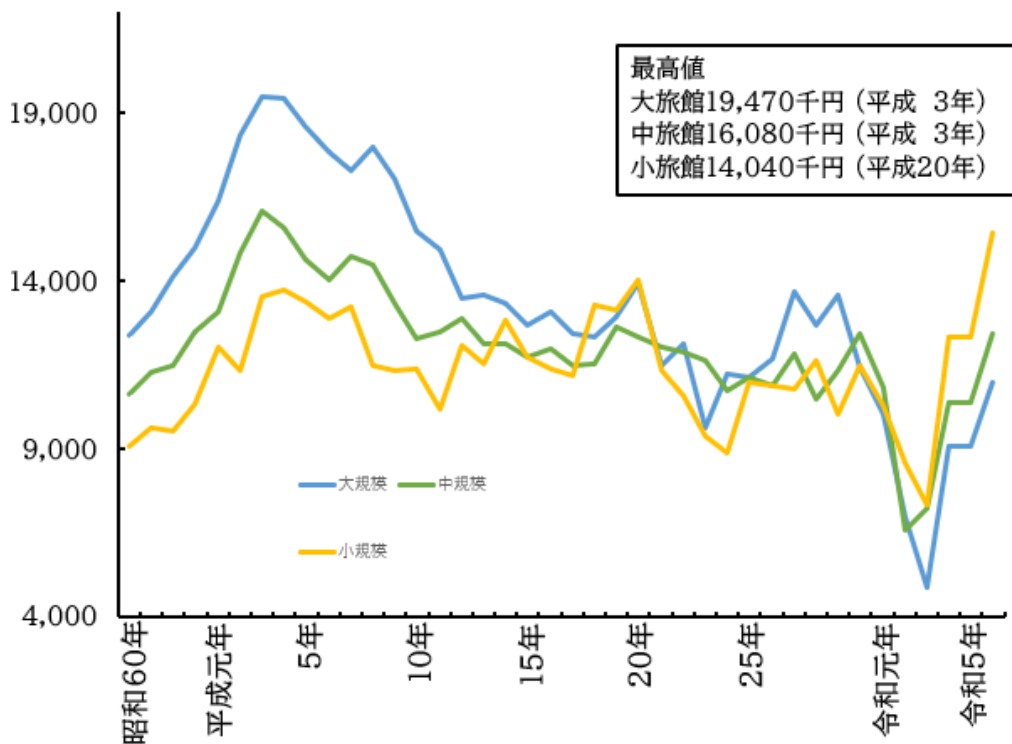
黒字・赤字別では、

- ・黒字 35,202円
- ・赤字 32,654円

表22 売上効率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1室当り売上高(千円)	令和元年	10,380	10,020	10,810	10,270
	2年	6,966	6,954	6,588	8,559
	3年	6,126	4,887	7,215	7,303
	4年	9,949	9,087	10,358	12,344
	5年	11,363	11,112	11,616	12,985
	6年	12,366	11,002	12,438	15,435
ADR(円)	令和元年	34,188	39,379	32,223	44,436
	2年	43,641	43,643	41,936	50,118
	3年	38,267	33,038	42,397	42,267
	4年	51,568	49,852	50,715	61,942
	5年	59,675	62,946	56,329	68,448
	6年	58,604	51,001	58,984	82,700
RevPAR(円)	令和元年	21,120	25,283	19,730	22,352
	2年	19,733	19,278	19,012	25,312
	3年	16,790	13,303	19,718	20,988
	4年	29,592	26,431	30,902	40,401
	5年	33,975	32,710	34,343	43,745
	6年	36,003	31,150	36,805	48,976

図7 1室当り売上の推移



12. 就業者・就業者効率 <図 8、表 23、表 24、表 25>

旅館ホテル業には様々な雇用形態が存在しますが、本調査では常勤役員、正社員、パートタイマー、アルバイト、派遣社員の合計を就業者としています。

(1) 就業者数

＝常勤役員+正社員+パートタイマー、アルバイト、派遣社員

1 軒当り就業者数は規模にほぼ比例しています。

全体の平均は 69 人で前年度比 2 人増加、令和元年度比 5 人減少となりました。

- ・大規模 147 人（前年度比 +9 人 +6.5% / 令和元年度比 +5 人 +3.5%）
- ・中規模 72 人（前年度比 ▲3 人 ▲4.0% / 令和元年度比 ▲6 人 ▲7.7%）
- ・小規模 27 人（前年度比 ±0 人 ±0.0% / 令和元年度比 +4 人 +17.4%）

表23 就業者数 (単位:人)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
就業者数	令和元年	74	142	78	23
	2年	68	161	63	25
	3年	61	116	73	26
	4年	69	146	72	28
	5年	67	138	75	27
	6年	69	147	72	27

(2) 1室当り就業者数

1室当り就業者数＝就業者数÷客室数

1室当りの就業者数は規模全体で 1.10 人であり前年度から 5.8%増加、令和元年度 4.8%増加でした。

規模別では

- ・大規模 0.80 人（前年度比 +0.04 人 +5.3% / 令和元年度比 ▲0.02 人 ▲2.4%）
- ・中規模 1.20 人（前年度比 ▲0.06 人 ▲4.8% / 令和元年度比 ▲0.08 人 ▲6.3%）
- ・小規模 1.50 人（前年度比 +0.07 人 +4.9% / 令和元年度比 +0.25 人 +20.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：1.00 人 赤字：1.20 人

(3) 就業者数 1人当り年間宿泊人員

就業者数 1人当り年間宿泊人員＝年間宿泊利用人員÷就業者数

就業者 1人当りの宿泊人員は規模全体で 492 人であり前年度から 7.0%増加、令和元年度から 8.9%減少しました。

規模別では

- ・大規模 659 人（前年度比 +13 人 +2.0% / 令和元年度比 ▲29 人 ▲4.2%）
- ・中規模 412 人（前年度比 +39 人 +10.3% / 令和元年度比 ▲50 人 ▲10.7%）
- ・小規模 288 人（前年度比 ▲33 人 ▲10.2% / 令和元年度比 ▲77 人 ▲21.0%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：531人 赤字：377人

(4) 就業者一人当り売上高

就業者一人当り売上高＝総売上÷就業者数

労働集約産業である旅館ホテルにとって大切な指標です。本調査では常勤役員、社員、パートタイマー・アルバイト、派遣社員を就業者として算出しています。全体平均は11,771千円で前年度比8.1%増加、令和元年度比8.1%増加でした。

- ・大規模 13,411千円（前年度比 ▲1,140千円 ▲7.8% / 令和元年度比 ▲39千円 ▲0.3%）
- ・中規模 10,137千円（前年度比 +895千円 +9.7% / 令和元年度比 +907千円 +9.8%）
- ・小規模 10,106千円（前年度比 +1,056千円 +11.7% / 令和元年度比 +606千円 +6.4%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字 12,046千円 赤字 8,994千円

(5) 就業者1人当り人件費

就業者1人当り人件費＝人件費（外注費等も含む）÷就業者数

人件費は協会の統一会計基準における科目を全て含みます。規模全体で3,490千円であり前年度から7.9%増加、令和元年度比8.9%減少しました。

規模別では

- ・大規模 3,718千円
（前年度比 ▲213千円 ▲5.4%
/ 令和元年度比 ▲1,002千円 ▲21.2%）
- ・中規模 3,135千円
（前年度比 +246千円 +8.5%
/ 令和元年度比 ▲85千円 ▲2.6%）
- ・小規模 3,362千円
（前年度比 +322千円 +10.6%
/ 令和元年度比 ▲148千円 ▲4.2%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：3,462千円 赤字：3,103千円

表24 従業員効率

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
	令和元年	1.05	0.82	1.28	1.25
2年	1.07	1.00	1.11	1.31	
3年	0.98	0.64	1.25	1.38	
4年	1.08	0.85	1.24	1.50	
5年	1.04	0.76	1.26	1.43	
6年	1.10	0.80	1.20	1.50	
就業者1人当り年間宿泊人員	令和元年	540	688	461	365
	2年	285	240	283	296
	3年	312	439	268	220
	4年	413	498	372	320
	5年	460	646	373	321
	6年	492	659	412	288
売上高者1千人当り	令和元年	10,890	13,450	9,230	9,500
	2年	6,059	6,551	5,390	6,282
	3年	6,226	7,611	5,717	5,291
	4年	9,227	10,687	8,329	8,235
	5年	10,892	14,551	9,242	9,050
	6年	11,771	13,411	10,137	10,106
人件費の1人当り	令和元年	3,830	4,720	3,220	3,510
	2年	2,928	3,240	2,644	2,710
	3年	2,759	3,368	2,496	2,460
	4年	3,114	3,491	2,899	2,810
	5年	3,233	3,931	2,889	3,040
	6年	3,490	3,718	3,135	3,362

(6) 労働生産性

労働生産性＝売上総利益÷就業者数

労働生産性を上記の計算式で算出しました。全体平均は9,212千円で、前年度から927千円増加、令和元年度から1,832千円増加しました。

労働集約型産業である旅館にとって労働生産性の向上は発展のうでで不可欠です。優秀な人材を確保し、労働生産性の更なる向上が必要です。

- ・大規模 10,213千円（前年度比 ▲ 747千円 ▲ 6.8% / 令和元年度比 +1,253千円 +14.0%）
- ・中規模 8,070千円（前年度比 +1,005千円 +14.2% / 令和元年度比 +1,640千円 +25.5%）
- ・小規模 8,325千円（前年度比 +1,325千円 +18.9% / 令和元年度比 +2,165千円 +35.1%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：9,506千円 赤字：6,784千円

労働生産性の違いが黒字・赤字を分けた要因のひとつと考えられます。

(7) 労働分配率

労働分配率＝人件費÷売上総利益×100

売上総利益に占める人件費の割合が労働分配率です。全体平均では37.9%で、前年度から1.1ポイント減少、令和元年度から8.3ポイント減少しました。

労働分配率は高ければ利益を圧迫しますが、低くければ良いとは限りません。付加価値が高まり低くなるのは良いのですが、給料を安くする等した結果で低くなるのは問題です。

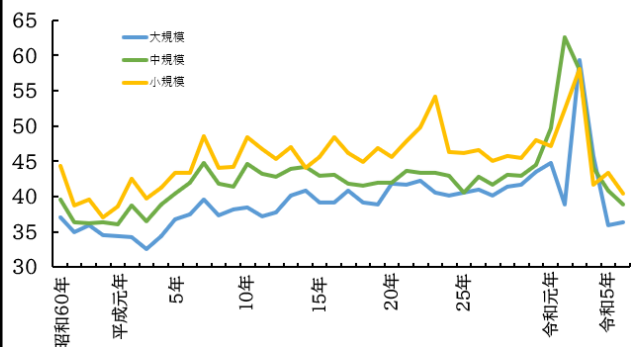
- ・大規模 36.4%（前年度比 +0.5P + 1.4% / 令和元年度比 ▲ 8.4P ▲18.8%）
- ・中規模 38.8%（前年度比 ▲2.1P ▲ 5.1% / 令和元年度比 ▲10.9P ▲21.9%）
- ・小規模 40.4%（前年度比 ▲3.0P ▲ 6.9% / 令和元年度比 ▲ 6.7P ▲14.2%）

黒字・赤字別では、黒字：36.4% 赤字：45.7%

表25 労働生産性、労働分配率

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
労働生産性 (千円)	令和元年	7,380	8,960	6,430	6,160
	2年	4,728	8,358	4,224	5,167
	3年	4,719	5,676	4,311	4,233
	4年	7,007	7,619	6,582	6,745
	5年	8,285	10,960	7,065	7,000
	6年	9,212	10,213	8,070	8,325
労働分配率 (%)	令和元年	46.2	44.8	49.7	47.1
	2年	61.9	38.8	62.6	52.4
	3年	58.5	59.3	57.9	58.1
	4年	44.4	45.8	44.0	41.7
	5年	39.0	35.9	40.9	43.4
	6年	37.9	36.4	38.8	40.4

図8 労働分配率の推移(%)



13. 延床面積効率<表 26>

(1) 1室当り延べ面積＝延べ面積÷客室数

全体平均では143㎡となり、前年度と比べ6㎡増加、令和元年度と比べ21㎡増加しました。

- ・大規模 132㎡（前年度比 ▲2㎡ ▲1.5% / 令和元年度比 +6㎡ +4.8%）
- ・中規模 159㎡（前年度比 +17㎡ +12.0% / 令和元年度比 +39㎡ +32.5%）
- ・小規模 133㎡（前年度比 +1㎡ +0.8% / 令和元年度比 +13㎡ +10.8%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：134㎡ 赤字：178㎡

(2) 定員1人当り延べ面積

定員1人当り延べ面積＝延べ面積÷収容人員

全体平均は38.2㎡前年度比2.1%増加、令和元年度と比べ29.1%増加しました。

- ・大規模 37.4㎡（前年度比 ▲1.2㎡ ▲3.1% / 令和元年度比 +4.4㎡ +13.3%）
- ・中規模 39.2㎡（前年度比 +2.6㎡ +7.1% / 令和元年度比 +11.0㎡ +39.0%）
- ・小規模 37.8㎡（前年度比 +2.1㎡ +5.9% / 令和元年度比 +10.3㎡ +37.5%）

黒字・赤字別では、

- ・黒字：36.2㎡ 赤字：43.7㎡

(3) 延床面積1㎡当り売上高

延床面積1㎡当り売上＝総売上÷延床面積

延床面積当り売上は、装置産業である宿泊業にとって投資効率を分析するのに適した指標です。

全体では86.5千円と、前年度比3.6千円増加、令和元年度と比べ6.1千円増加しました。

- ・大規模 83.4千円（前年度比 +0.6千円 +0.7% / 令和元年度比 +3.4千円 +4.3%）
- ・中規模 78.1千円（前年度比 ▲3.8千円 ▲4.6% / 令和元年度比 ▲11.9千円 ▲13.2%）
- ・小規模 116.4千円（前年度比 +17.7千円 +17.9% / 令和元年度比 +35.9千円 +44.6%）

黒字・赤字別では、

- ・全体 黒字：91.7千円 赤字：62.6千円
- ・大規模 黒字：86.2千円 赤字：58.4千円
- ・中規模 黒字：93.5千円 赤字：61.9千円
- ・小規模 黒字：120.0千円 赤字：86.0千円

表26 延床面積効率

	年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
1室当り延べ面積(㎡)	令和元年	122	126	120	120
	2年	154	166	143	135
	3年	128	124	137	112
	4年	141	138	146	136
	5年	137	134	142	132
	6年	143	132	159	133
定員1人当り延べ面積(㎡)	令和元年	29.6	33.0	28.2	27.5
	2年	36.4	38.5	33.6	36.1
	3年	33.4	33.9	33.6	31.2
	4年	36.8	36.0	39.3	32.3
	5年	37.4	38.6	36.6	35.7
	6年	38.2	37.4	39.2	37.8
延床面積当り売上(千円)	令和元年	80.4	80.0	90.0	80.5
	2年	44.9	41.9	45.3	62.3
	3年	48.0	39.6	52.5	65.0
	4年	70.5	65.7	71.1	90.5
	5年	82.9	82.8	81.9	98.7
	6年	86.5	83.4	78.1	116.4

II. 全件調査

以下の項目は、回答された全ての調査票を対象に集計しています。

1. 集客方法<図9、表27>

(1) 予約方法

お客様が予約される際の方法を旅行会社、OTA（オンライントラベル）、自社HP、直予約の4つに絞って調査しました。

(2) 旅行会社経由率

旅行会社経由率=旅行会社経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

旅行会社経由の予約は減少傾向にあります。今回の調査において全体平均は30.1%であり、前年度から2.4ポイント増加、令和元年度から10.8ポイント減少しました。大規模旅館における団体の復活が大きな要因と考えられます。

- ・大規模 38.0% (前年度比 +3.0P + 8.6% / 令和元年度比 ▲ 5.5P ▲12.6%)
- ・中規模 22.4% (前年度比 ▲0.4P ▲ 1.8% / 令和元年度比 ▲17.6P ▲44.0%)
- ・小規模 18.3% (前年度比 ▲0.1P ▲ 0.5% / 令和元年度比 ▲ 3.2P ▲14.9%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：30.2% 赤字：31.5%

(3) OTA（オンライントラベル）経由率

OTA 経由率=OTA 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は46.9%であり、前年度から2.0ポイント増加、令和元年度から16.0ポイント増加しました。中長期的に増加傾向にあります。インバウンド増加による海外系OTAの増加も一因と考えられます。

- ・大規模 41.6% (前年度比 +2.7P +6.9% / 令和元年度比 +11.1P +36.4%)
- ・中規模 53.3% (前年度比 +3.6P +7.2% / 令和元年度比 +23.7P +80.1%)
- ・小規模 49.1% (前年度比 ▲0.9P ▲1.8% / 令和元年度比 + 2.2P + 4.7%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：47.1% 赤字：44.5%

(4) 自社HP 経由率

自社HP 経由率=自社HP 経由の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は11.5%であり、前年度から1.1ポイント減少、令和元年度から0.1ポイント減少しました。

- ・大規模 9.6% (前年度比 ▲1.3P ▲11.9% / 令和元年度比 ▲1.1P ▲10.3%)
- ・中規模 12.2% (前年度比 ▲0.8P ▲ 6.2% / 令和元年度比 +0.8P + 7.0%)
- ・小規模 20.7% (前年度比 +3.3P +19.0% / 令和元年度比 ▲2.4P ▲10.4%)

黒字・赤字別では、

- ・黒字：11.9% 赤字：9.2%

(4) 直予約（自社HPを除く）経由率

直予約（自社HPを除く）経由率＝直予約（自社HPを除く）の宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体平均は11.5%と、前年度比3.3ポイント減少しました。

- ・大規模 10.9%（前年度比 ▲4.3P ▲28.3%）
- ・中規模 12.1%（前年度比 ▲2.4P ▲16.6%）
- ・小規模 11.9%（前年度比 ▲2.4P ▲16.8P）

（令和2年度新しく作った設問であるため、令和元年度比は掲載しておりません。）

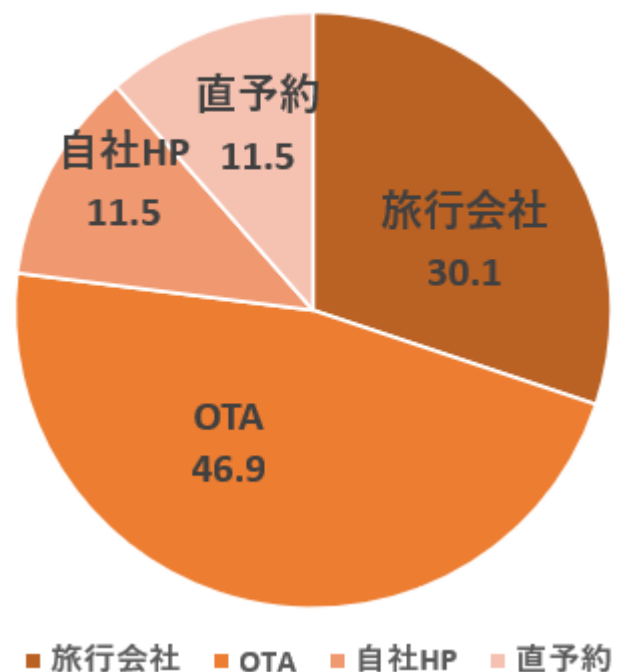
コロナ期間では全体の来客数が減少するなか、お得意様のご来館により自社HPや直予約の割合が増えましたが、コロナ収束後は全体の来客数の回復により自社HP及び直予約の割合が減少したのと思われます。

表27 集客の方法

(単位:%)

年度		全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
旅行会社経由	令和元年	40.9	43.5	40.0	21.5
	2年	24.1	27.0	23.7	10.6
	3年	22.5	25.2	21.2	16.9
	4年	26.8	33.0	23.1	15.9
	5年	27.7	35.0	22.8	18.4
	6年	30.1	38.0	22.4	18.3
OTA経由	令和元年	30.9	30.5	29.6	46.9
	2年	48.3	47.6	48.2	51.7
	3年	45.3	43.4	46.9	46.4
	4年	43.3	38.0	48.4	46.0
	5年	44.9	38.9	49.7	50.0
	6年	46.9	41.6	53.3	49.1
自社HP経由	令和元年	11.6	10.7	11.4	23.1
	2年	11.1	10.5	10.3	17.3
	3年	14.9	14.7	14.3	18.3
	4年	14.4	14.2	13.0	20.1
	5年	12.6	10.9	13.0	17.4
	6年	11.5	9.6	12.2	20.7
直予約	令和元年	-	-	-	-
	2年	16.1	14.3	17.5	19.2
	3年	17.2	16.7	17.3	18.4
	4年	15.5	14.8	15.6	18.0
	5年	14.8	15.2	14.5	14.3
	6年	11.5	10.9	12.1	11.9

図9 宿泊人員構成



2. ホームページ<表 28、表 29、表 30>

(1) 即時予約可能なホームページがある場合の対応言語

外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 97.3%
- ・英語 : 81.8%
- ・繁体字 : 52.4%
- ・簡体字 : 48.0%
- ・韓国語 : 39.2%
- ・タイ語 : 2.0%
- ・スペイン語 : 1.4%
- ・ドイツ語 : 1.4%
- ・フランス語 : 2.7%

表28 即時予約可能なHPがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和6年	97.3	81.8	52.4	48.0	39.2	2.0	1.4	1.4	2.7

(2) 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語

スマートフォンの外国語ホームページ対応割合は

- ・日本語 : 98.6%
- ・英語 : 83.4%
- ・繁体字 : 53.3%
- ・簡体字 : 47.5%
- ・韓国語 : 39.2%
- ・タイ語 : 3.5%
- ・スペイン語 : 2.8%
- ・ドイツ語 : 2.1%
- ・フランス語 : 4.2%

表29 即時予約可能なスマートフォンサイトがある場合の対応言語 (単位:%)

年度	日本語	英語	中国語		韓国語	タイ語	スペイン語	ドイツ語	フランス語
			繁体字	簡体字					
令和6年	98.6	83.4	53.3	47.5	39.2	3.5	2.8	2.1	4.2

(3) インターネットでの予約受付方法

全体の平均は、

- ・自社ホームページだけで販売 0.0%
- ・自社ホームページと OTA で販売 97.3%
- ・自社ホームページはなく OTA だけで販売 1.4%
- ・ネット予約は取り扱っていない 1.4%

表30 インターネット対応の状況について (単位:%)

	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
自社HP だけで販売	0.0	0.0	0.0	0.0
自社HPとOTA で販売	97.3	100.0	100.0	92.6
自社HPはなく、 OTAだけで販売	1.4	0.0	0.0	3.7
ネット予約は 取り扱っていない	1.4	0.0	0.0	3.7

3. インターネット対応 <表 31>

(1) サイトコントローラーの導入状況

サイトコントローラーを導入している全体の平均は97.3%でした。

大規模：100.0% 中規模：100.0% 小規模：92.6%

小規模旅館において数軒導入していませんが、中規模以上の導入率は100%であり、この設問自体が不要になりました。

(2) 公衆無線LANの設置状況、設置場所

公衆無線LANを全館で使えるのは全体で91.2%です。毎年着実に増加しています。

大規模：96.4% 中規模：92.4% 小規模：87.0%

表31 インターネット対応

(単位:%)

	サイトコントローラーを 導入している	公衆無線LANの設置		
		全館で 使える	一部で 使える	使えない
全体	97.3	91.2	7.4	1.4
大規模	100.0	96.4	0.0	3.6
中規模	100.0	92.4	7.6	0.0
小規模	92.6	87.0	11.1	1.9
北海道	100.0	100.0	0.0	0.0
東北	100.0	91.7	8.3	0.0
関東	100.0	92.3	7.7	0.0
北陸信越	83.3	91.7	8.3	0.0
中部	100.0	100.0	0.0	0.0
関西	100.0	96.3	3.7	0.0
中国	100.0	91.7	8.3	0.0
四国	86.7	60.0	26.7	13.3
九州	100.0	90.5	9.5	0.0
黒字	99.1	92.5	6.5	0.9
赤字	93.8	87.5	9.4	3.1

4. 外国人宿泊客 <表 32、表 33、表 34、表 35、表 36>

(1) 外国人宿泊人員比率

外国人宿泊人員比率＝外国人宿泊人員÷年間延べ宿泊人員×100

全体における外国人宿泊人員比率は 24.1%となり、前年度から 9.3 ポイント増加、令和元年度から 14.4 ポイント増加しました。

- ・大規模 27.5% (前年度比 +11.0P + 66.7%)
/ 令和元年度比 +16.8P +157.0%)
- ・中規模 18.9% (前年度比 + 6.2P + 48.8%)
/ 令和元年度比 +10.4P +122.4%)
- ・小規模 24.7% (前年度比 + 5.6P + 29.3%)
/ 令和元年度比 +14.8P +149.5%)

表32 外国人宿泊人員比率

(単位:%)

年度	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
令和元年	9.7	10.7	8.5	9.9
2年	0.8	1.3	0.7	0.7
3年	0.2	0.0	0.6	0.1
4年	7.7	9.1	6.6	6.3
5年	14.8	16.5	12.7	19.1
6年	24.1	27.5	18.9	24.7

(2) 地域別外国人宿泊人員比率

全地域が増加しましたが、東北や中国がまだまだ受け入れる余裕があります。

表33 地域別外国人宿泊人員比率

(単位:%)

地域	令和5年	令和6年	増減
北海道	24.6	39.2	14.6
東北	5.8	10.1	4.3
関東	22.8	28.5	5.7
北陸信越	8.3	11.8	3.5
中部	7.0	17.8	10.9
関西	17.1	18.4	1.3
中国	3.9	8.9	5.0
四国	9.5	18.0	8.5
九州	10.9	17.1	6.1

(3) 国籍別外国人宿泊人員

国籍別外国人＝国別の人員÷外国人宿泊人員×100

中国が大きく増加しました。

表34 国籍別外国人宿泊

(単位:%)

年度	中国	韓国	台湾	香港	米国	タイ	豪州	その他
令和元年	26.4	12.9	25.7	12.7	3.4	3.2	-	14.9
2年	35.9	2.6	16.1	10.3	4.2	6.3	1.9	22.6
3年	11.1	5.9	2.3	1.8	6.3	1.6	0.6	70.3
4年	2.5	11.5	14.2	11.8	5.9	7.2	2.6	44.3
5年	7.8	27.3	23.5	11.6	6.1	4.1	2.5	17.2
6年	13.5	24.2	26.0	10.4	4.9	2.3	2.1	16.8

(4) 外国人客受け入れの意向

- ・積極的に受け入れたい 64.2% ±0.0 (P)
- ・高単価の外国人のみ受け入れたい 14.9% +0.1 (P)
- ・日本人観光客を優先する 20.3% ▲0.7 (P)
- ・外国人客は受け入れたくない 0.0% ±0.0 (P)

表35 訪日外国人客の受入れ

(単位:%)

年度	積極的に受け入れたい	高単価の外国人客のみ受け入れたい	日本人客を優先する	外国人客は受け入れたくない
令和元年	51.9	20.0	25.9	1.5
2年	55.0	21.7	23.3	0.0
3年	51.0	22.5	25.0	0.0
4年	61.1	22.2	16.7	0.0
5年	64.2	14.8	21.0	0.0
6年	64.2	14.9	20.3	0.0

表36 規模別外国人の受け入れ意向

(単位:%)

令和6年	全体	(大規模)	(中規模)	(小規模)
積極的に受け入れたい	64.2	64.3	69.7	57.4
高単価の外国人客のみ受け入れたい	14.9	25.0	13.6	11.1
日本人客を優先する	20.3	10.7	16.7	29.6
外国人客は受け入れたくない	0.0	0.0	0.0	0.0

もはやインバウンドのお客様無しに成り立たない地域も多くなってきました。旅館経営の大きな課題です。

5. クレジットカード&電子決済<表 37>

(1) クレジットカード決済

クレジットカード決済が可能なのは、

大規模：100.0% 中規模：100.0% 小規模：100.0%

(2) ネット予約時の事前決済

ネット予約時の事前決済が可能なのは全体で95.9%となりました。

大規模：100.0% 中規模：98.5% 小規模：90.7%

(3) クレジットカード以外の電子決済

クレジットカード以外の電子決済が可能なのは全体で87.7%となりました。規模が小さくなるほど低くなる
ことが課題です。

大規模：96.3% 中規模：90.9% 小規模：79.2%

(4) 自社HPからの予約に占める事前決済の割合

自社HPからの予約に占める事前決済の割合は全体で27.6%となりました。

大規模：23.3% 中規模：23.8% 小規模：34.6%

表37 決済方法

(単位:%)

	クレジットカードによる決済が可能	ネット予約時の事前決済が可能	クレジットカード以外の事前決済が可能	自社HPからの予約に占める事前決済の割合
全体	100.0	95.9	87.7	27.6
大規模	100.0	100.0	96.3	23.3
中規模	100.0	98.5	90.9	23.8
小規模	100.0	90.7	79.2	34.6
北海道	100.0	100.0	84.6	26.7
東北	100.0	91.7	83.3	34.3
関東	100.0	92.3	76.9	24.1
北陸信越	100.0	91.7	91.7	20.5
中部	100.0	100.0	100.0	22.0
関西	100.0	100.0	88.5	42.1
中国	100.0	91.7	91.7	25.5
四国	100.0	93.3	100.0	20.4
九州	100.0	95.2	81.0	23.3
黒字	100.0	95.3	87.6	29.2
赤字	100.0	100.0	93.8	22.4

むすび

今回の調査では全ての旅館ホテルが新型コロナウイルス感染症の影響から回復した決算書によるものです。インバウンドも順調に回復&増加しました。全国的に少しずつ分散傾向にありますが、まだまだ少ない地域もあり、如何に取り込むかを自治体とも連携した取り組みが重要です。

この報告書にはありませんが、調査票に決算書の数値を入力して頂くと前年度の平均やあるべき指標が表示され、自社の立ち位置が分かります。

調査にご協力頂きました会員の皆さまに感謝申し上げます。



一般社団法人 **日本旅館協会**
JAPAN RYOKAN & HOTEL ASSOCIATION

令和7年12月
営業状況等統計調査(解説編)

発行 一般社団法人 日本旅館協会
〒102-0093
東京都千代田区平河町 2-5-5
全国旅館会館2階
TEL : 03-5215-7337 FAX : 03-5215-7338

本書を許可無く複製する事は固く禁じます。許諾については当協会までご照会下さい。